

広島から平和の担い手を育てる

原爆投下という悲しい歴史を繰り返すまいと、渡部朋子代表を中心に、国内外で復興支援や次世代の若者への平和教育に着手。まさに今、長年の紛争からの脱却を目指すフィリピンのミンダナオでも平和教育の普及に取り組む。



NPO法人ANT-Hiroshima

世界とつながる“ひろば”

在住外国人と市民が気軽に交流できる施設。異文化紹介や語学教室など多彩なプログラムを用意。農家などでの研修のアレンジも行っている。新潟県中越地震時の助け合いの経験から、“顔の見える関係”を大切にしたい長岡ならではの心温まる交流がウリ。



長岡市国際交流センター「地球広場」



鹿児島県 アジア・太平洋農村研修センター

研修員受け入れで地域を元気に

農林水産業が盛んな鹿児島県。農村振興、環境保全など、開発途上国の参考になるような取り組みが多いことから、現地からの研修員受け入れに積極的。地元の人たちが地域の歴史や現状、課題について見直す機会にもなっている。

島の知見でリサイクル!

閉ざされた環境の島しょ地域が抱える課題の一つがごみ。その解決のためには、まずは、地域にリサイクル文化を根付かせることが大切。沖縄の経験を持ち、大洋州に浮かぶトンガのパバウ島で住民・行政・民間企業が総出で行うリサイクルの仕組みづくりに挑戦中。



沖縄リサイクル運動市民の会

Bangladesh が瀬戸内を彩る

今夏の瀬戸内国際芸術祭では、高松港で Bangladesh の首都ダッカの市場を再現! 現地から約100人の職人、演奏家、ダンサーなどが来日し、連日エネルギー溢るパフォーマンスを披露した。青年海外協力隊の経験者も通訳として活躍。



瀬戸内国際芸術祭2013

国際協力の イロイロ IN JAPAN

特集 市民参加
あなたの一歩が世界を変える

日本国内にも、実は、あなたの身近なところに
世界とつながる“窓”がある—。
全国津々浦々、日本の地域が生み出した
イロイロな取り組みを紹介。



NPO法人アクセス
-共生社会をめざす地球市民の会

4 マイクロクレジットで貧困から脱却

フィリピンの農村で女性グループを立ち上げ無担保で融資。その資金で、養豚、炭作り、軽食の調理・販売、トライシクルの営業などを行い生計向上を目指す。経営力を身に付けるセミナーも実施。毎年恒例のスタディーツアーには関西の学生が多数参加している。



国立大学法人名古屋大学
農学国際教育協力研究センター

3 酒造りで地域おこし

ボル・ボト時代に失われた伝統産業を取り戻したい—。カンボジアで消滅の危機にあった米の蒸留酒“スラソー”をよみがえらせるべく、伝統的な蒸留手法を生かしつつ、日本が誇る工程管理を徹底指導。「Suraa Takeo」として商品化にこぎ着けた。首都プノンペンのレストランやホテルで大人気。

2 地震の苦しみから共に立ち上がる

東日本大震災の被災者が語り部となり、防災・減災の知識を伝える巡回ワークショップ「むすび塾」。その舞台は国内にとどまらず、同じく大地震を経験したインドネシア・バンダアチェへ。被災体験を共有することで、両国の思いが一つに。互いに励まし合いながら、住民主体で災害に強いまちづくりに取り組んでいる。



株式会社河北新報社・むすび塾



北海道札幌清田高等学校

1 教室を飛び出して羽ばたく

国際感覚を持った“Globalist”を育てたいと、2005年にグローバルコースを設置。マレーシアの高校への訪問、カンボジアやベトナムでのボランティア、JICA研修員やJICAボランティアの経験者との交流などを通じて、世界に目を向け、国境を超えて人を思いやる心を育てている。

